富田林市指定文化財　第１号

富田林寺内町絵図

【名称】　富田林寺内町絵図（とんだばやしじないまちえず）
【員数】　７鋪一括
【内訳】　宝暦三年富田林村絵図、富田林村絵図（年代未詳、宝暦十年～明和三年ヵ）、安永七年富田林村絵図、天保八年富田林村絵図、富田林村絵図（年代未詳、天保八年ヵ）、富田林村絵図（年代未詳､天保十四年頃ヵ）、富田林村絵図（年代未詳）
【種別】　歴史資料

富田林寺内町絵図は、江戸時代中期から後期に作成された７点の絵図で、重要伝統的建造物群保存地区富田林寺内町の町割り・形状等を描いた最も古い絵図群です。

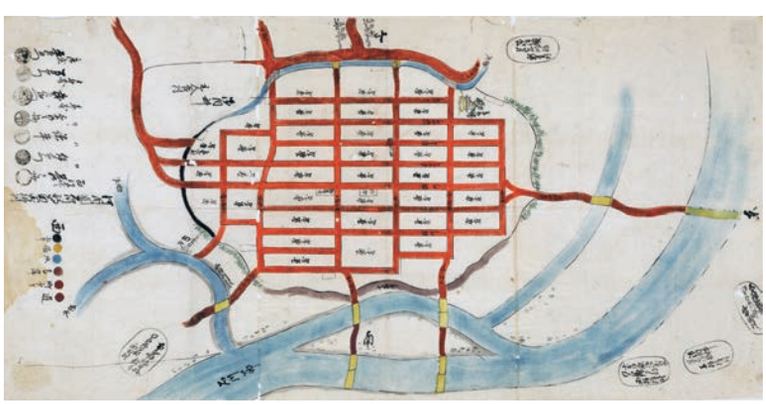
絵図から､現在の町割りが江戸時代からほぼ変わらないことが読み取れます。当時の町割りのほか、周辺の景観形状や土地利用についても知ることができるなど、資料的価値が高く、今後文書史料や発掘調査などにより、町の具体的形状や内部構成の変化などをさらに明らかにしていく上でも、その基礎となるもので、2019（平成31）年４月24日に市指定文化財第１号として指定しました。

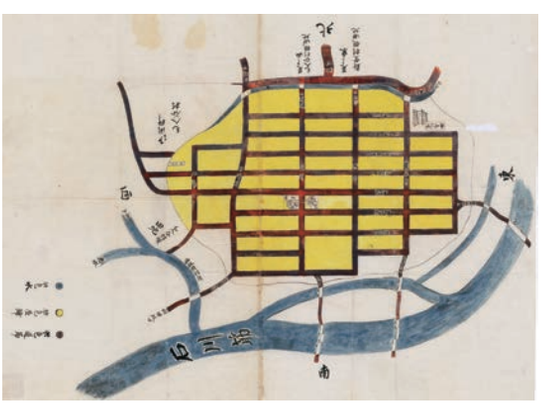
富田林寺内町の位置

富田林寺内町とは

中世末期に形成された寺内町の骨格を引き継ぎながら、江戸時代には在郷町として栄えました。

重厚な造りの商家をはじめ、江戸時代から昭和中期までの各時代の特徴をなす町家や寺院などが一体となり、特色ある歴史的風致を今なお良好に伝えていることから、平成９年10月に、大阪府内で唯一の国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。


富田林村絵図（天保 14 年頃ヵ）

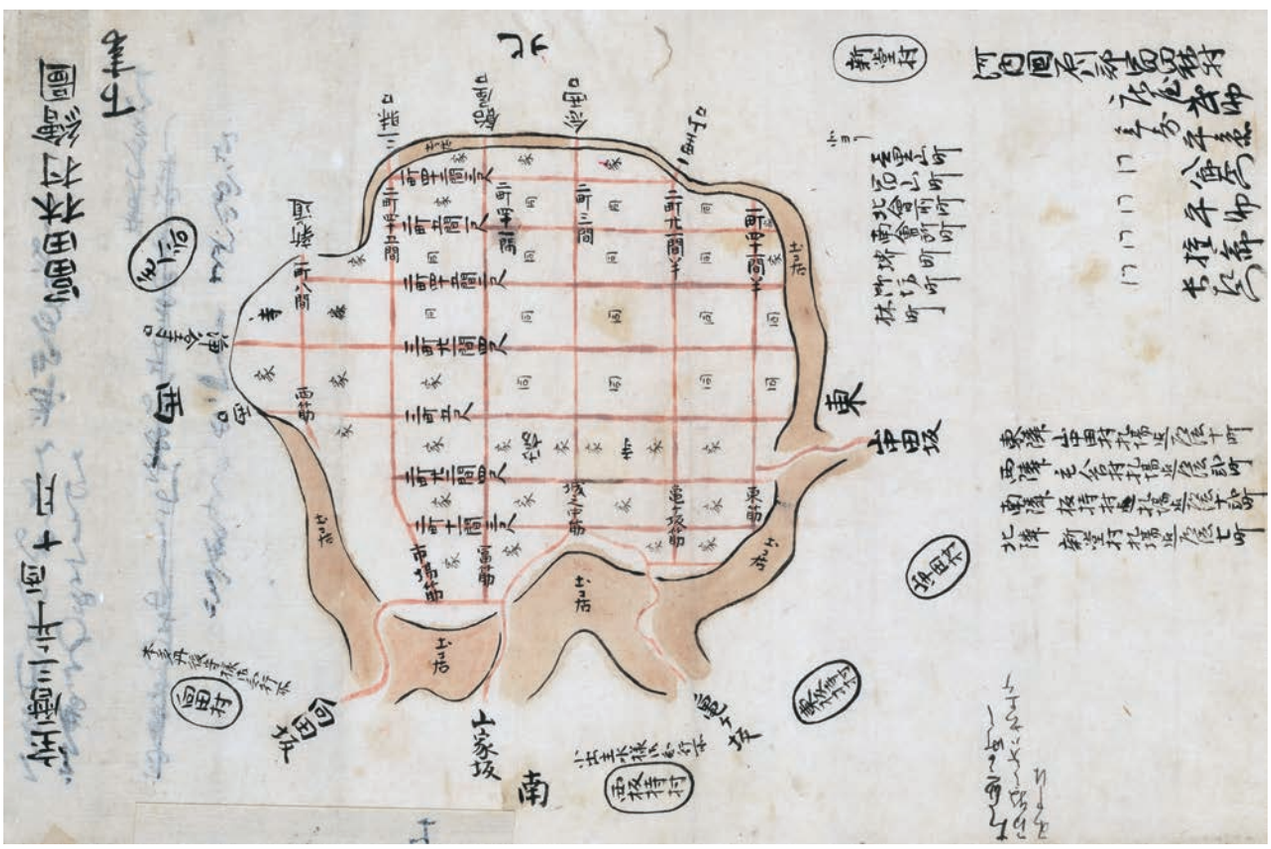

富田林村絵図（年代未詳）

宝暦三年富田林村絵図　　宝暦３年（1753年）

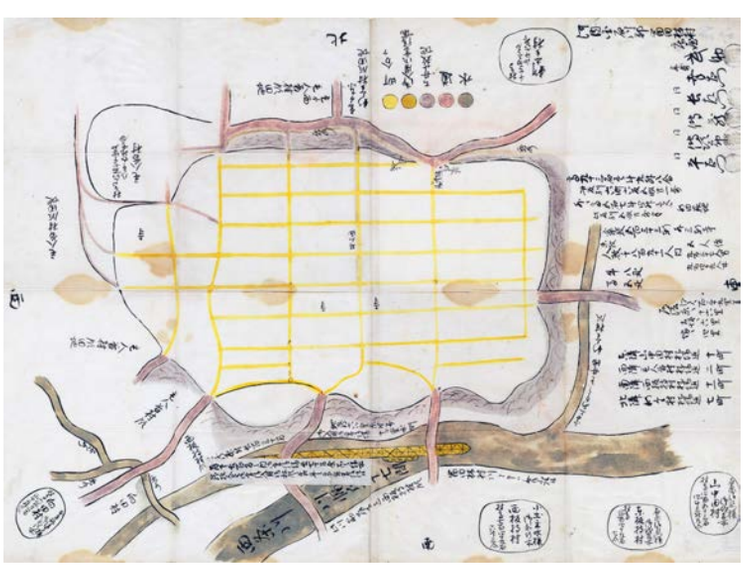
富田林寺内町の町割りを詳しく描いたものとしては最も古い絵図です。宝暦３年は寺内町の建設から既に 200 年たっていますが、現在６筋８町の町並みがこの絵図では６筋７町として描かれ、周囲に土居をめぐらせているなど、建設当時に近い姿を考える手がかりとなります。

段丘崖にあたる東側から南側にかけては、土居の幅が広く描かれているなど、自然地形を十分に活かして町がつくられていたことがうかがえます。

富田林寺内町を描いた絵図のうち、町筋の長さを記した絵図はこれのみであり、当時の寺内町の規模を知るうえでも非常に貴重です。



富田林村絵図
（宝暦 10 ～明和３年ヵ）
（1760 ～ 1766年）

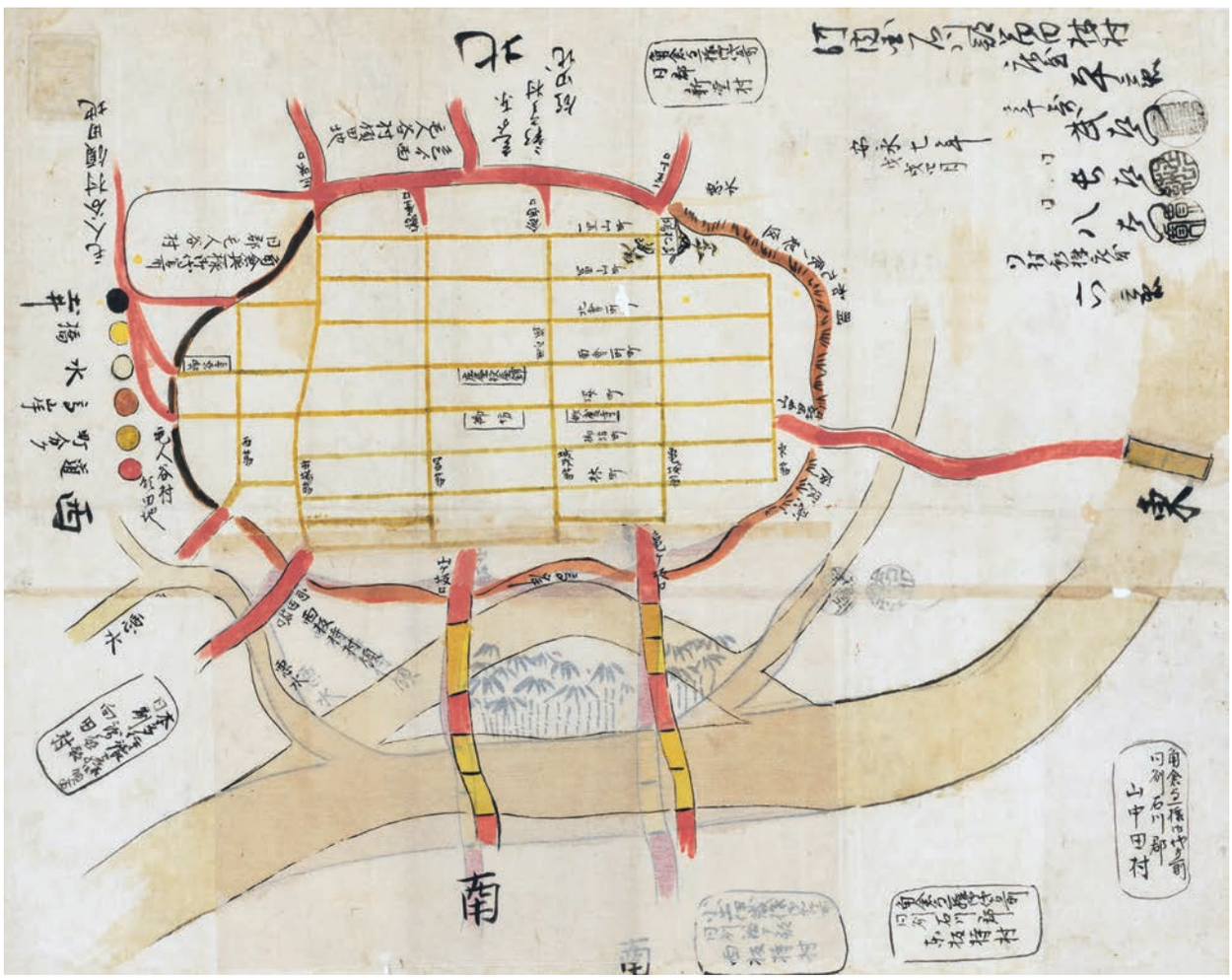


町筋のうち林町で街区が一つ増え、現在と同じ６筋８町となっていることが注目されます。

絵図の端には、村役人の名前のほか、村高、竈（かまど）の数、人口、牛馬の数、隣村への距離などが記されており、貴重な情報といえます。

安永七年富田林村絵図　　安永７年 （1778年）

町筋（町分け）と村から外への道は、色を変えて描かれています。宝暦３年の絵図と同じく、町筋や村の出入口の名前が記されていることに加え、一里塚や高札場、用心堀のほか、新たに庄屋役屋鋪（やしき）が描かれ、寺院の名前も記されています。



この絵図には、本紙の上に付紙が付けられています。付紙をめくり本紙を見ると、石川の川筋が違うことがわかります。本紙に描かれた石川には中州がなく、高岸と石川の間には竹藪が描かれています。昔の石川は、たびたび川筋を変えていたことがわかります。

付紙部分

本紙部分

天保八年富田林村絵図　　天保８年（1837年）

将軍の代替わりにともなう幕府巡見使の視察に先がけて作成されたものと考えられる絵図です。この絵図と同じ内容の年代未詳の絵図では、現在の東高野街道と考えられる道が強調して描かれています。

絵図には、一里山口、山中田坂口、山ヶ坂口、向田坂口の４か所に小さく門が描かれています。一里山口には、一里塚と高札場も描かれています。

現在の富田林興正寺別院、妙慶寺、浄谷寺は上から眺めたように描かれ、門や建物、境内地を囲む築地塀などの配置や形状を知ることができ、当時の姿を知るうえで興味深い絵図です。

天保八年富田林村絵図

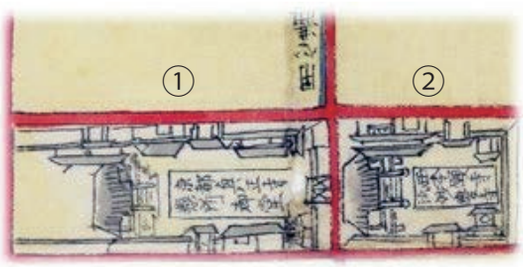
富田林村絵図（年代未詳、天保８年ヵ）

③

④

⑤

⑥



⑦

① 興正寺別院
② 妙慶寺
③ 浄谷寺
④ 向田坂口
⑤ 山ヶ坂口
⑥ 山中田坂口
⑦ 一里山口

富田林市文化財リーフレット　１

富田林市指定文化財第１号

富田林寺内町絵図

発行年月　令和３年３月
編集発行　富田林市教育委員会
〒584-8511
富田林市常盤町１番１号
TEL(0721)25－1000　（代表）